

事項	りんご新品種「あおり9（彩香）」の結実特性からみた栽培管理上の留意点		
ねらい	<p>平成13年1月に苗木業者に許諾した「あおり9」は、着色が優れ、病害に強く、自家摘果性を持つ省力栽培向きの品種である。しかし、果形が不揃いで、こうあ部、がくあ部にさびがでやすいなどの欠点がある。</p> <p>「あおり9」の結実特性について調査した結果、良品生産のための栽培管理上の留意点について明らかになったので参考に供する。</p>		
指導参考内容	<p>1 結実特性</p> <p>(1) 「あおり9」の自家摘果性の発現（結実果の自然落下）は落花10日後ころから始まり、落花20～25日後ころにほぼ終了する。</p> <p>(2) 1果そう当たりの平均着果数は、0.7～1.9と樹によって異なり、樹勢が弱い樹で着果数が少ない。結実果がすべて落下してしまう果そうや中心果が落下してしまう果そうも見られる。また、果枝の種類によっても違いが見られ、長果枝の着果数が多く、次いで中果枝、短果枝が最も少ない。</p> <p>(3) 収穫時の果形は、短果枝に結実した果実より、中・長果枝に結実した果実の方が良く、果梗長も長い。</p> <p>(4) 収穫時に結実した果実を中心果と側果に分けて比較した結果、側果は中心果に比べて極端に果形が悪く、こうあ部のさびも多い。</p> <p>2 栽培管理上の留意点</p> <p>(1) 「あおり9」は、短果枝より中・長果枝に良品果がなり、樹勢が弱いと落果数が多くなりすぎ、摘果時に良品果を選択できないので、樹勢を強めに維持し、中・長果枝の発生を促すよう剪定等に留意する。</p> <p>(2) 摘果は、1つ成り摘果を行わず、落花20日後ころから仕上げ摘果を行うだけでよい。その際、側果のみ結実している果そうは全部摘果し、中心果が結実している果そうの中から、さびの発生がなく、果形のよい果実を残すように注意する。</p>		
期待される効果	「あおり9」の良品生産が期待できる。		
利用上の注意事項	樹勢の弱い樹では、摘花や摘果を早めに行い、樹勢回復に努める。		
担当	青森県りんご試験場 育種部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成10、14年度 青森県りんご試験場試験研究成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

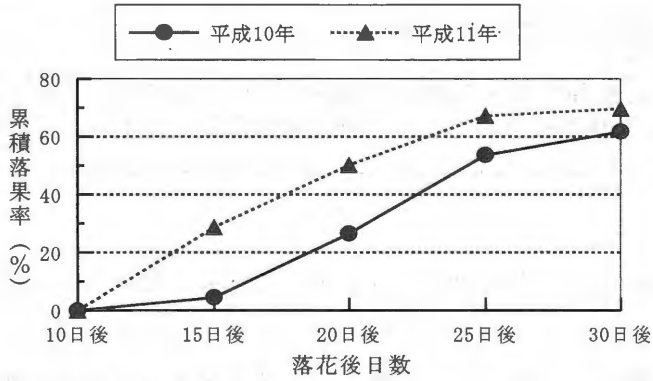


表1 あおり9の落花30日後の着果数 (平成10年 青森りんご試)

樹No.	1果そう当たり平均着果数	中心果落下率(%)
No. 1	1.3	22.5
No. 2	1.6	23.3
No. 3	1.8	30.0
No. 4	1.9	22.0

図1 累積落果率の推移 (平成10～11年 青森りんご試)

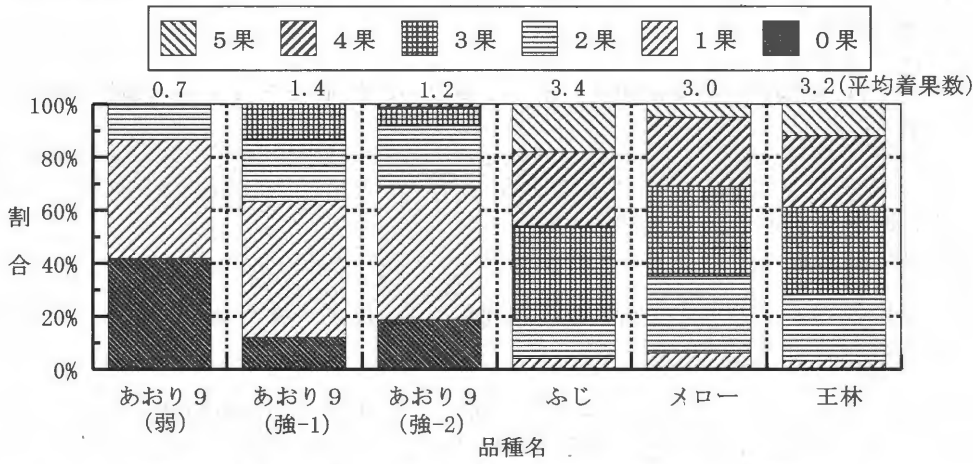


図2 樹勢・品種の違いと落花25日後の着果数別果そう数の割合 (平成10年 青森りんご試)

表2 果枝の種類別着果数 (平成14年 青森りんご試)

果枝長の長さ	調査果そう数	平均着果数
短果枝(5cm以下)	111	1.6c
中果枝(6～10cm)	15	2.2b
長果枝(11～20cm)	24	2.9a

(注) 異符号はTukeyの多重検定(1%)で有意差あり

表3 果枝の種類別結実果(中心果)の形質 (平成14年 青森りんご試)

果枝長の長さ	調査果そう数	1果重(g)	果形値	果梗長(cm)
短果枝	136	349	2.9	1.4
中・長果枝	61	355	3.5	1.6
t検定	—	ns	**	*

(注) 1 果形値：果形がよいものを5、悪いものを1 2*は5%、**は1%水準で有意差あり

表4 中心果と側果の形質 (平成14年 青森りんご試)

区分	調査果そう数	1果重(g)	果形値	さび果率(%)
中心果	152	350	3.1	7.9
側果	52	361	2.4	55.8
t検定	—	ns	**	—

(注) さび果率：こうあ部にさびがある果実の割合



写真1 果形値の基準 (青森りんご試)